



中期環境計画2015

コニカミノルタは、「エコビジョン2050」の実現に向けたマイルストーンとして、2015年度をターゲットとする「中期環境計画2015」を策定しています。この計画では、「地球温暖化防止」「循環型社会への対応」「化学物質リスクの低減」「生物多様性への対応」の4テーマについて、具体的な取り組みと達成すべき目標を掲げています。この計画を事業ごとの目標として明確化し、事業計画に組み入れて具体的な施策を展開することで、中期環境計画を確実に推進していきます。

主な2015年度目標と重点施策

テーマ	主な2015年度目標(基準年:2005年度 ^{※1})	重点施策
地球温暖化防止	製品ライフサイクルにおけるCO ₂ 排出量:20%削減	
	製品使用に起因するCO ₂ 排出量:60%削減	●省エネ新規技術の開発と製品への適用
	生産活動に起因するCO ₂ 排出量:10%削減(売上高原単位 ^{※2})	●生産技術、生産改革によるエネルギー効率改善 ●事業ユニット単位でのグリーンファクトリー認定基準の達成
	物流活動に起因するCO ₂ 排出量:30%削減(売上高原単位)	●SCM ^{※3} 推進による物流の効率化
	販売・サービスに起因するCO ₂ 排出量:50%削減(売上高原単位)	●販売・サービスの効率化
循環型社会への対応	石油由来資源の使用量:20%削減(売上高原単位)	●省資源技術の新規開発と製品への適用 ●生産技術開発による生産活動からの廃棄量削減 ●販売・サービスの効率化による燃料使用量削減
	包装材料の使用量:25%削減(売上高原単位)	●商品梱包材の減量化
	生産活動からの外部排出物量 ^{※4} :50%削減(売上高原単位)	●生産技術、生産改革による生産ロス削減(ゼロエミッション活動) ●事業ユニット単位でのグリーンファクトリー認定基準の達成
	製品リサイクル:各地域における使用済み製品の再資源化体制の構築、再資源化率90%以上	●地域ごとの再資源化体制の最適化
化学物質リスクの低減	化学物質管理:サプライチェーン ^{※5} 全体を含めた化学物質の厳格管理を維持	●新たな化学物質管理の仕組み確立
	VOC(揮発性有機化合物)の大気排出量:75%削減(環境影響度指数 ^{※6})	●生産技術、生産改革によるVOCリスク低減 ●事業ユニット単位での削減計画の達成
生物多様性への対応	生物多様性の修復と保全に貢献する	●生態系の保全・再生プログラムの構築 ●NGOとのパートナーシップ形成

※1 多くの国際的な枠組みは、温室効果ガスの削減目標の基準年を1990年としていますが、コニカミノルタは2003年に経営統合を行い、その後、大きく事業内容を変えてきたことをふまえ、2005年度を基準年に設定しました。

※2 売上高原単位:売上高当たりの環境負荷量。

※3 SCM(サプライチェーンマネジメント):調達、生産、物流、販売を経て、お客様に製品やサービスが提供されるまでの一連の流れを最適に管理していく手法。

※4 外部排出物量:生産活動にともなって発生する総排出物量から内部リサイクル量と減量化量を引いた、コニカミノルタの拠点外に排出される量。

※5 サプライチェーン:ここでは、上流の素材会社から部品加工会社を経て、コニカミノルタに納品されるまでのルートを対象としています。

※6 環境影響度指数:VOC排出量に有害性係数(人健康影響、環境影響度)と立地係数をかけ合わせた、コニカミノルタ独自の指数。



2009年度の目標と実績／2010年度目標

「中期環境計画2015」の各目標の達成に向けて、各事業会社で単年度ごとの目標値を設定し、さまざまな施策を実施しています。2009年度の目標については未達成となった項目もありましたが、今後も2015年度の目標達成、そして2050年のビジョン実現に向けて、継続的な取り組みを進めていきます。

2009年度の目標と実績、2010年度目標(2005年度比)

テーマ	2009年度目標	2009年度実績	達成度	2010年度目標
地球温暖化防止	製品ライフサイクルにおけるCO ₂ 排出量：-32.5%	-44.9%	○	-43.5%
	製品使用に起因するCO ₂ 排出量：-48.5%	-60.5%	○	-62.9%
	生産活動に起因するCO ₂ 排出量：+13.4% (売上高原単位 ^{※1})	+19.2%	×	+34.6%
	物流活動に起因するCO ₂ 排出量：-33.3% (売上高原単位)	-10.7%	×	-17.0%
	販売・サービスに起因するCO ₂ 排出量：+63.4% (売上高原単位)	+63.5%	×	+44.7%
循環型社会への対応	石油由来資源の使用量：+21.6%(売上高原単位)	+18.2%	○	+21.2%
	包装材料の使用量：+17.9%(売上高原単位)	-28.3%	○	-24.7%
	生産活動からの外部排出物量 ^{※2} ：+1.7%(売上高原単位)	+10.8%	×	+9.9%
	再資源化：現状確認と施策の具体化、計画策定	展開計画策定	○	再資源化体制の現状確認と計画策定
化学物質リスクの低減	化学物質管理：新グリーン調達システムへの移行	移行完了	○	新グリーン調達システムの本格稼働 中国でのRoHS対応準備完了
	VOC(揮発性有機化合物)の大気排出量：67%削減 (環境影響度指数 ^{※3})	-78%	○	-71%
生物多様性への対応	現状確認と計画策定	事業活動との関連性評価 計画策定	○	紙の調達基準検討 生態系保全計画の具体化

※1 売上高原単位：売上高あたりの環境負荷量。

※2 外部排出物量：生産活動にともなって発生する総排出物量から内部リサイクル量と減量化量を引いた、コニカミノルタの拠点外に排出される量。

※3 環境影響度指数：VOC排出量に有害性係数(人健康影響、環境影響度)と立地係数をかけ合わせた、コニカミノルタ独自の指数。

※ 各テーマの詳細は以下のページ参照

- 地球温暖化防止(→P12)
- 循環型社会への対応(→P20)
- 化学物質リスクの低減(→P30)
- 生物多様性への対応(→P35)



グリーンファクトリー認定制度

コニカミノルタは、「中期環境計画2015」の目標達成を支える取り組みとして、2009年度から「グリーンファクトリー認定制度」による活動を開始しました。これは、生産拠点における環境配慮を総合評価し、一定の基準を満たした拠点を「グリーンファクトリー」として認定する、コニカミノルタ独自の取り組みです。

グリーンファクトリー認定制度の概要

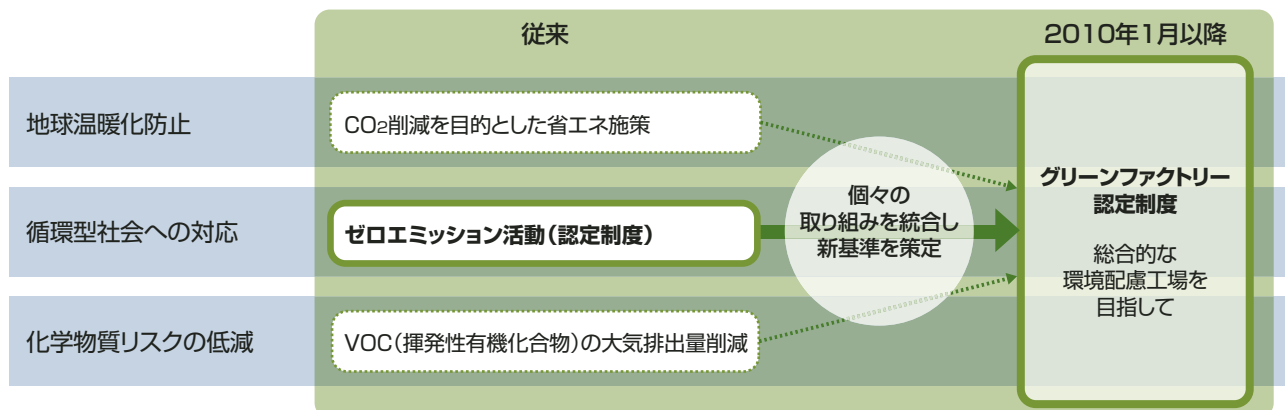
生産拠点の環境配慮を総合的に評価します。

コニカミノルタは、これまで「循環型社会への対応」のテーマで廃棄物の削減に関する2段階の基準を設定し、達成した工場を「ゼロエミッション工場」とする認定制度を運用してきました。その結果、2009年度に全世界のグループ生産拠点がレベル2基準を達成しました。

グリーンファクトリー認定制度は、「循環型社会への対応」についてさらに厳しい基準※を設定するとともに、「地球温暖化防止」「化学物質リスクの低減」についても全社統一基準を定め、総合的な環境配慮工場を目指す活動に進化させたものです。

※ ゼロエミッション活動の推進により、外部排出物量の削減が進んだ2005年を基準年として設定しています。

グリーンファクトリー認定制度



※ ゼロエミッション活動の推進(→P24)





グリーンファクトリー認定制度

グリーンファクトリー認定基準

二段階の基準を設定して、全生産拠点での達成を目指します。

グリーンファクトリー認定制度では、2015年度のあるべき姿を基準とした「レベル2」と、そのマイルストーンとしての2011年度の姿「レベル1」を設定し、それぞれの年度までに全生産拠点での達成を目指します。

また、この認定制度では、目標値の達成だけでなく、実施プロセスも評価の対象としています。評価の明確化のため、ガイドラインを策定して、実施状況を点数化する仕組みを構築しました。ガイドラインは、コニカミノルタの環境施策のノウハウを結集した約250項目におよぶ実施項目と、項目ごとの評価基準などを一覧化したものです。これに沿った活動を行うことで、活動の質的向上も図っていきます。

2010年1月から全世界の24生産拠点※において、策定した実行計画に基づく活動を開始しました。

※ 目標は事業ユニット単位で設定。所在地が異なっても同じ事業ユニットに属する場合は、一つの拠点としています。

グリーンファクトリー認定基準

テーマ	管理指標		レベル1	レベル2
地球温暖化防止	CO ₂ 排出量(生産原単位※1)		12%削減※6、※7	20%削減※6、※7
循環型社会への対応	ゼロエミッション活動	外部排出物量※2(売上高原単位※3)	30%削減※6、※7	50%削減※6、※7
		外部排出物の最終処分率	0.5%以下	0.5%以下を維持
	石油由来資源廃棄物量※4(売上高原単位)		30%削減※6	50%削減※6
化学物質リスクの低減	VOC(揮発性有機化合物)の大気排出量		「中期環境計画2015」に基づく各拠点の2011年度目標の達成	「中期環境計画2015」に基づく各拠点の2015年度目標の達成
ガイドラインに沿った活動	実施項目の達成率※5		70%以上	90%以上

※1 生産原単位：生産高あるいは生産量あたりの環境負荷量。事業ユニットごとに、CO₂排出に対する生産性が適切に評価できる方を選択します。

※2 外部排出物量：生産活動にともなって発生する総排出物量から内部リサイクル量と減量化量を引いた、コニカミノルタの拠点外に排出される量。

※3 売上高原単位：売上高あたりの環境負荷量。

※4 石油由来資源廃棄物量：外部排出物量のうち、石油由来の排出物量。

※5 ガイドラインでは、実施項目ごとに「0点～3点」の4段階の評価基準と、達成目標となる「基準点」を設けています。達成率とは、全項目に対する、基準点をクリアしている項目の割合を意味します。

※6 2005年度を基準年としています。ただし、事業再編などにより生産品目や生産状況が著しく変化した場合は、規定に従って変更することがあります。

※7 この数値を基本として、工場の特性に合わせた基準を個別に設定しています。